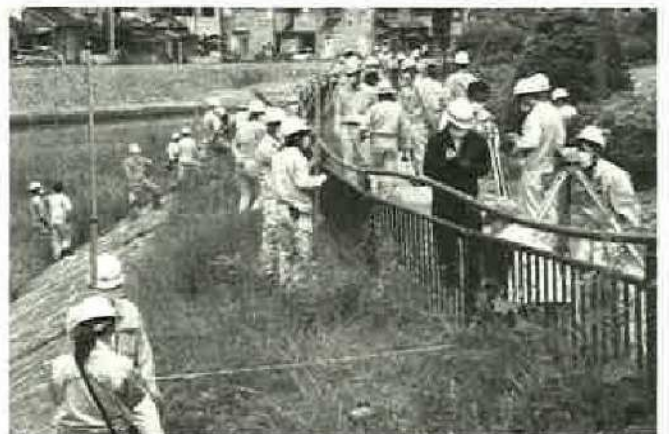


建設事業市町職員が研修

県まちづくり技術センター主催
測量実習など基礎知識学ぶ

入庁1〜3年目の建設事業を担当する県内各市町の職員を対象にした研修を18〜20日、県まちづくり技術センター（寺谷毅理事長）が神戸市と高砂市で開いた。次世代の技術者育成や市町職員同士の連携を目的としており、42人の参加者は熱心に耳を傾けていた。



測量実習に取りくむ市町職員ら

2日目の19日は、高砂市生石研修センター（高砂市阿弥陀町）や近くの法華山谷川の河川護岸で測量実習を実施。県測量設計業協会による指導の下、参加者はグループに分かれ、災害時などを想定したポール横断測量や水準測量の2通りの測量を行い、歩道から河川までの距離や高さなどを測った。その後、測った結果をもとに手書きによる図面作成に取り組んだ。

そのほか、コンクリート構造物や公共工事の工事積算・管理・監督について、実際に担当しているセンター職員から、業務に必要な基礎知識や過去の事例解説を聞いた。

参加者からは「測量実習は覚えやすく、水準測量の精密さに驚いた」「実践的な講義が多く有意義だった。他市町の職員と3日間を共にし、会話も弾み仕事内容など情報共有も図れた。『横のつながり』を大切にしていきたい」などの声があがっていた。

兵庫ジャーナル1900号
5月30日掲載